

1 青少年教育に関するモデル的事業  
ウ 地域探究プログラム



全国高校生体験活動顕彰制度  
「地域探究プログラム」オリエンテーション合宿 in 諫早  
学校参加型:長崎北陽台高校文理探究科1年生

〔主催〕 国立諫早青少年自然の家  
〔期日〕 令和5年4月27日(木)10:00 ~ 28日(金)15:30 【1泊2日】  
〔会場〕 国立諫早青少年自然の家、白木峰高原、コスモス花宇宙館  
〔参加者〕 長崎北陽台高校文理探究科1年生 78名  
〔担当職員〕 西田 尚由、寺中 拓也、小野 栄策、中里 文彦、貞方 貴衣、松尾 天仁、小柳 響生

1)趣旨

高校生が地域づくりや地域の課題解決などに関する体験活動を通して、課題発見・解決能力を高め、それぞれの実践活動の成果や自身の成長を適切に評価する力を身に付けることにより、新たな価値を創造する人材を育成するとともに、青少年の体験活動に関する社会的な認知を高める。

2)SDGsで目指す姿

		目標4 質の高い教育をみんなに 全ての子供たちに質の高い自然体験活動を提供し、自尊感情の向上を図る。 目標12 つくる責任 つかう責任 地方の文化振興・産品販促につながる持続可能な観光業の促進に関する情報と意識を持つようにする。
---	---	---

3)目標

- ①入学間もない生徒間の人間関係を深め、参加者の協調性やコミュニケーション力の向上と、協働的な学びの礎を築く。
- ②探究活動のプロセスを学び、疑似的に経験することで、今後の探究活動への意欲を高める。

4)プログラム

1日目(4月27日)	2日目(4月28日)
9:00 [ガイダンス] 開始式・講話等	6:30 起床
10:00 野外炊事	6:45 ラジオ体操
14:00 [ワークショップ・講話等] 【写真2】 白木峰高原について	7:00 朝食
15:00 [ワークショップ・講話等] 【写真2】 フィールドワーク (白木峰高原・コスモス花宇宙館)	7:50 宿泊棟清掃
17:00 夕食(レストラン)・休養	9:00 [実践活動のためのガイダンス] 社会のルール・マナーについて
	10:00 [講義・演習②] 白木峰高原を海外の方に紹介する
	12:00 昼食

18:30 【講義・演習①】 白木峰高原について考察	13:00 【発表②】 白木峰高原を海外の方に紹介する	【写真5】
20:00 【発表①】 白木峰高原についての考察結果発表	15:30 自然の家出発	
21:00 入浴・就寝		

## 5)事業展開

### 1 【ガイダンス】 野外炊事

所員より、「地域探究プログラム」についての説明や2日間の活動の目的等の講話を行った。

その後、入学間もない生徒間の人間関係を深め、協調性やコミュニケーション力の向上を目的として、野外炊事(カレー作り)を実施した。

### 2 【ワークショップ・講話等】



2日間を通して白木峰高原の観光をテーマに探究活動を行った。

最初に講師より白木峰高原の特徴や整備について説明を受けた。その後、フィールドワークにより白木峰高原・コスモス花宇宙館を訪れ、白木峰高原についての理解を深めた。

### 3 【講義・演習①】 【発表①】

講師より探究活動のプロセスや“クラゲチャート”等の思考ツール、実践活動のポイントについて学習した。その後、講師のファシリテートにより、白木峰高原について事前に学習したことで、フィールドワークで実際に現地を訪れて気づいたこと等を班ごとにまとめて整理し、発表会を行った。

### 4 【実践活動のためのガイダンス】

2日目の最初に所員より、今後の「全国高校生体験活動顕彰制度」の進め方や探究学習を進める際のポイントや注意点等の説明を行った。

### 5 【講義・演習②】 【発表②】

「白木峰を海外の方にプレゼンしよう」という課題を設定し、1日目の学習を踏まえて、班ごとに様々なアイデアを出し合い、模造紙やプレゼンテーションにまとめ、発表会を行った。



## 6) 評価

### ① アンケート結果(事業全体に対する満足度)

満足	やや満足	やや不満	不満
76%	21%	3%	0%

### ② 参加者の声

- ・ 様々な活動を通して、クラスの仲が深まった。みんなで協力することの大切さを知ることができた。
- ・ 学校ではあまり学習できない内容を学ぶことができ、話を聞くだけでなく、実際に現地へ行ったりできたからよかった。
- ・ グループ活動を多く取り入れてくださったので、仲間との仲が深まり、作業もスムーズに進んだ。「一緒に学ぶ」という感じの授業で楽しかった。
- ・ 自分の意見、そして他の人の意見を議論しながら一緒に良いものを作り上げていく楽しさを知ることができた。
- ・ たくさんの人の意見を聞き、視野が広がった。
- ・ 今回の活動を通して、幅広い分野の知識を得たり、探究活動の進め方を学ぶことができた。今後もそのような知識や経験を活かして、探究活動に取り組んでいきたい。
- ・ 今回学習した探究活動の方法をもとに、普段から疑問に感じたことはより深く調べるようにしたい。

## 7) 成果と課題

### ① 成果

- ・ 参加者の多くが「探究アワード」に興味を持ってきて、「探究アワード」に“参加したい”と回答してくれた生徒も6割程度いた。
- ・ 短期間での準備だったが、前年度にも同事業を実施した学校だったこともあり、学校側が実施したい内容が明確だったため、活動内容の調整は円滑に進めることができた。

### ② 課題

- ・ 高校側の事前準備の時間に余裕がなかったため、学校のカリキュラム等を十分に消化できないまま事業に参加した生徒も多かった。講師(野口氏)には参加者の様子を観察、把握していただきながら、適切に講義を進めていただくことができた。
- ・ 高校のカリキュラムと「地域探求プログラム」の趣旨が合致しない部分が多く、「探究アワード」にエントリーするための探究活動を進める際に、生徒や担当の先生に大きな負担となっていた。